

---

## DEE (Decision Evidence Engine)

「証明できない AI は、企業最大の負債になる。」

---

### 1. エグゼクティブ・サマリー

AI をはじめとする自動化技術が企業の意思決定プロセスに組み込まれる中、経営における最重要課題は「その判断の正当性を事後的に証明できるか」という点に集約されます。

プロセスを証明できない意思決定は、内部統制の不備による監査対応の失敗、インシデント発生時の責任所在の不明確化、ひいては企業ブランドの致命的な毀損といったリスクに直結します。「なぜその判断を下したのか」を客観的に証明できないシステムは、もはや本番環境で稼働させるべきではありません。

DEE (Decision Evidence Engine) は、意思決定が行われた瞬間の状態を、改ざん不可能な「証拠 (Evidence)」として固定し、第三者が再計算により検証可能にするプロトコルです。特許出願済みの排他制御技術により、不正なデータは記録される前にシステム入力層で物理的に遮断され、蓄積される証拠の完全な真正性が保証されます。

---

### 2. なぜ今、導入が必要か (Why Now)

企業は現在、「自動化による責任問題の拡大 (Liability Shock)」という未知のリスクに直面しています。

意思決定の AI 依存：与信、採用、発注など、事業の根幹をなす判断がブラックボックス化したアルゴリズムに委ねられつつあります。

規制と説明責任の厳格化：欧州 AI 法をはじめとする世界的な法規制は、企業に対して意思決定プロセスの厳格な説明責任を求め始めています。

立証責任の所在：システムが誤判断を下した際、その原因の立証責任は企業側にあります。

プロセスを証明できない判断は、即座に経営上の甚大なリスクへと転換されます。

---

### 3. 従来システムの限界

既存のログ管理や監査基盤は、法的な「証拠」としての要件を満たしていません。

- ① 因果関係の欠如：従来のログは単なる結果の羅列に過ぎず、「なぜその判断に至ったか」というプロセス間の因果関係を証明できません。
  - ② 改ざん・事後生成の余地：APIのバイパスやデータベースの直接操作により、事後的に辻褃を合わせたログを生成することが構造上可能です。
  - ③ 莫大な監査コスト：記録の正当性を確認するために膨大な人手による突合作業を要し、意思決定のスピードに監査体制が追いつきません。
- 

### 4. DEE の解決策

DEE は、企業の意思決定を「証明可能な証拠」へと変換します。

#### ① 排他制御ゲートウェイによる純度の保証（コア技術）

正規の SDK/API を経由し、ハッシュや電子署名による整合性検証をクリアしたデータのみを記録します。代替経路からのアクセスや不正なデータは入力層で物理的に拒否されるため、蓄積される証跡の純度は常に 100% に保たれます。

#### ② 因果関係の構造的な固定

意思決定の流れを単独の点ではなく、連鎖する構造として固定します。これにより、プロセスの順序変更、中間プロセスの削除、事後的な改ざんを論理的に不可能にします。

#### ③ 決定論的 (Deterministic) 検証

固定された同一データからは、誰が検証を行っても必ず同一の結果が再現されます。これにより、監査法人等の第三者がシステムに依存せず、独立して監査を実施することが可能になります。

---

## 5. 従来手法との決定的違い

既存のログ管理ツール (Splunk 等)、BI ツール、ワークフローシステムはいずれも「結果の記録・可視化」に留まり、判断の真正性を証明することはできません。DEE は「証拠の生成と固定」に特化しており、根本的に役割が異なります。

---

## 6. 導入の容易性

DEE の導入において、既存のシステムアーキテクチャに手を加える必要はありません。UI やデータベースの改修は不要であり、API を通じた接続のみで、現在の業務フローを維持したまま即座に意思決定の証拠化を開始できます。

---

## 7. ビジネスインパクト

防衛 (ガバナンス強化) : 監査対応の自動化を実現し、内部統制を強固にするとともに、訴訟等における法的リスクを極小化します。

コスト削減 : 監査や証拠確認にかかる膨大な工数を削減し、同時に不正や無駄な意思決定による経済的損失を未然に防ぎます。

信用の獲得 : プロセスの透明性を確保することで、顧客や投資家に対する説明責任を全うし、AI 活用の正当性を示す確固たる評価を確立します。

---

## 8. 戦略的ポジショニング (Open / Closed 戦略)

DEE は、標準化とビジネス上の独占を両立する独自の戦略を採用しています。

Open (透明性の担保) : 証拠の正しさを確認する検証ロジック (Verify) は無償公開し、誰もがブラックボックスなしに検証可能な状態を構築します。

Closed (優位性の確保) : 証拠生成 API、排他制御ゲートウェイ、スコアリングエンジンは特許によって強固に保護され、模倣を許さないインフラとして機能します。

---

## 9. 結論

次世代のデジタル社会において、「証明できない意思決定」は存在しないことと同義です。

DEE を導入していない状態とは、判断の正当性を客観的に説明できず、インシデント発生時に自社の責任を証明する手段を持たず、厳格化する監査に耐えられないことを意味します。それは、企業としての説明責任を放棄している状態に他なりません。

DEE は単なる監視ツールではありません。企業のあらゆる意思決定を確固たる「証拠」として固定する、新しい時代の信用インフラです。

---